

令和5年9月4日

東員町議会

広聴広報常任委員会委員長 様

東員町議会

大崎昭一

報 告 書

研修期間	令和 5 年 8 月 28 日 (月) ～ 8 月 29 日 (火) 【2日間】
研修 (視察) 先	1 日目 東京都 全国町村議員会館 2 日目 神奈川県 かいせいまち 開成町
目的 (テーマ等)	1 日目 令和5年度全国町村議会広報クリニック 2 日目 開成町議会「ギカイだより」について
参加議員名 (複数の場合)	広田久男、山崎まゆみ、片松雅弘、三林 浩、中村 等、大崎昭一
資料添付の有無	有 ・ <u>無</u>

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

〔議員氏名： 大崎昭一〕

研修概要、内容、所感

1 日目

<研修概要>

「とういん議会だより」をよりよく充実発展させることを目的に、全国町村議会議長会が主催する「令和5年度 町村議会広報クリニック」で研修を受けた。

学習会は前半、前田安正氏（文章コンサルティングファーム未来構想代表取締役）から、「情報としてのことばを伝える」を演題として講演を受けた。後半は、鳥取県岩美町、鳥取県北栄町、鳥取県日吉津町、鳥取県伯耆町、鳥取県日南町、島根県奥出雲町、広島県海田町の各「議会だより」の良い点、改善点を講師が論評した。

<内容>

講演の大筋は、①文章を書くとはどういうことだろう ②いい文章とは何か ③ことばを情報に変える ④「等」の落とし穴（広報にありがちな表現）⑤情報とメディア ⑥時代とともに変換する文章 ⑦5W1H を考える ⑧わかりやすい文章の基本 ⑨起承転結の考え方 ⑩文章を簡潔にする（骨と肉）⑪文章の構成を意識する などに目次建てしてわかりやすくお話をいただいた。

<所管>

① 町民からみてわかりやすい「議会だより」になるためには、第三者が文章を読んで理解できることが肝要で「伝える文章」ではなく「伝わる文章」にすること ②そのためには、5W1Hの基本 ③助詞の使い方、とりわけ「は」と「が」の使い方の意味合いを理解すること などが勉強になり、「とういん議会だより」の作成に大いに参考していきたい。

2 日目

<研修概要>

神奈川県開成町議会で「ギカイだより」の研修を受けた。

開成町は1955年に発足。東名高速道路大井松田ICに近く、東海道線「小田原」駅から小田急電鉄で約30分という交通至便、面積6.55㎢、山林がなく可住地割合100%、気候温暖な地、7,357世帯、18,800人（2023年7月現在）、議員定数12、本年度当初予算69億5900万円で本町よりやや小規模の自治体である。

庁舎は新築間もなくきれいで立派である。何よりも、玄関正面は総合窓口、インホメーションがあり、職員が「いらっしやいませ」と来庁者に声を響かせているのが印象的である。



玄関正面の総合窓口

<内容>

広報広聴常任委員会は議長を除く 11 名すべての議員で構成し、広報と広聴の 2 部会に分けている。「ギカイだより」を年 4 回発行。

令和 4 年度から紙面を A4 判 12 ページからタブロイド判に変更し、発行号によって見開き 2 ページあるいは十文字折り 8 ページで編集を工夫して、伝わる紙面、読まれる紙面づくりの意欲が伝わってくる。

また時代を反映し「読む」と「見る」を連動させ、積極的にインターネットや動画ソフトを活用しているとの説明を受けた後、当方の経験も報告し互いの取り組みを学び合った。



プライバシーを尊重
しての来庁者との接
遇スペース

<所感>

議員一人に一台のタブレットを貸与活用している点は当議会も同じだが、タブレット使用環境に大きな格差を感じた。当議会は、ペーパーレスということのみにとどまっているが、開成町議会は、そのみならず、インターネット環境と動画ソフトをも議員が活用・運用して、町民への発信力向上を図っていることには感心した。

わが議会の HP、インターネット活用などの分野での取り組みを早期に改善することは議会改革の重要課題であることを教えられた研修であった。

以上